

企業価値創造に向けた開示と対話を加速する 統合報告の作成・活用の実務

～日本版スチュワードシップ・コードと日本版コーポレートガバナンス・コード対応を踏まえて～

●プログラム●

【開催主旨】

日本版スチュワードシップ・コードと日本版コーポレートガバナンス・コード対応を踏まえた、企業と投資家による実りある対話が求められる中、対話ツールとしての統合報告がますます注目されるようになっていきます。統合報告をめぐる国内外の最新動向を紹介するとともに、投資家は企業開示をどう見ているのか、投資家との実りある対話のために企業が取り組むべき課題は何かを解説します。

- ◆日時：2015年1月30日（金） 13:30～17:00
- ◆会場：東京・麹町 「企業研究会 セミナールーム」
- ◆講師：安井 肇氏（やすい はじめ）

【略歴】

あらた監査法人 総合金融サービス推進本部兼あらた基礎研究所 顧問
日本銀行に28年間勤務後、中央青山監査法人を経てあらた監査法人に入所。あらた基礎研究所所長を経て、2014年より現職。現在、JBAグループ顧問、日本企業価値創造ERM学会理事、日本知的資産経営学会学術顧問等を兼務。

久禮 由敬氏（くれ よしゆき）

【略歴】

あらた監査法人 リスク・アシユアランス ディレクター
財務諸表監査、内部統制監査、コーポレートガバナンスの強化支援、グローバル内部監査支援、CAATによるデータ監査支援、不正調査支援、BCP/BCM高度化支援、IFRS対応支援、統合報告をはじめとするコーポレートレポートに関する調査・助言等に幅広く従事。

三代 英敏氏（みしろ ひでとし）

【略歴】

あらた監査法人 財務報告アドバイザー部 マネージャー
財務諸表監査、内部統制監査、IFRS対応支援、統合報告をはじめとするコーポレートレポートに関する調査・助言等に幅広く従事。

●参加要領●

一般社団法人 企業研究会 セミナー事務局宛 **FAX 03-5215-0951**

*当会ホームページ (<http://www.bri.or.jp>) からもお申込みいただけます

●受講料●1名（税込み、資料代含む）

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日（開催日1週間～10日前までに）受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより【TOP】→【公開セミナー】→【よくあるご質問】をご参照下さい。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当：村野 E-mail murano@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 31MT ビル 2F
TEL 03-5215-3550 FAX 03-5215-0951

141679-0403		※ 2015.1.30 統合報告の作成・活用の実務	
会社名			
住所	〒		
TEL		FAX	
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			

企業価値創造に向けた開示と対話を加速する 統合報告の作成・活用の実務

～日本版スチュワードシップ・コードと日本版コーポレートガバナンス・コード対応を踏まえて～

<13:30-14:30>

「企業価値創造に向けた開示と対話の動向 ～2014年の振り返りと2015年の展望～」

あらた監査法人 総合金融サービス推進本部兼あらた基礎研究所 顧問 安井 肇氏

1. 海外リスクマネーを引き寄せるために ～日本再興戦略と稼ぐ力～
2. 資本市場の規制・監督にかかわる潮流の変化
3. 日本版スチュワードシップ・コードと日本版コーポレートガバナンス・コード、そして会社法改正
4. ウーマノミクスとダイバーシティ開示

<14:40-15:40>

「統合報告をめぐる国内外の動向」

あらた監査法人 財務報告アドバイザリー部 マネージャー 三代 英敏氏

1. 国内外における統合報告をめぐる動向 ～IIRCそしてCRD～
2. パイロットプログラムの振り返りと学ぶべき教訓
3. 国内の好事例のポイント
4. 海外の好事例のポイント
5. 統合報告の読み手は何を期待しているか？

<15:50-16:50>

「統合報告を活用した投資家との対話と持続的価値創造の実現」

あらた監査法人 リスク・アシュアランス ディレクター 久禮 由敬氏

1. 初回作成にどう向き合うか？ ～統合報告作成の5つの壁とその乗り越え方～
2. 日本企業にとっての実務的な挑戦テーマ
～中長期戦略、コーポレートガバナンスとリスク管理、KPI、そして業績評価～
3. 統合報告を活用するベネフィットを最大化するために
～統合報告を用いた持続的な対話の継続～

<16:50-17:00>

質疑応答